

## 1. 略歴

- 1977年3月 東京教育大学附属高等学校卒業  
1977年4月 東京大学教養学部文科3類入学  
1981年3月 東京大学文学部第一類（美学芸術学専修課程）卒業  
1981年4月 東京大学大学院人文科学研究科（美学芸術学専門課程）修士課程入学  
1984年3月 東京大学大学院人文科学研究科（美学芸術学専門課程）修士課程修了  
1984年4月 東京大学大学院人文科学研究科（美学芸術学専門課程）博士課程進学  
1988年9月 東京大学大学院人文科学研究科（美学芸術学専門課程）博士課程単位取得退学  
（その間 1987年10月～1988年9月 DAAD（ドイツ学術交流会）奨学生としてハンブルク大学に留学）  
1992年10月 東京大学大学院人文科学研究科において博士（文学）取得  
1988年10月 神戸大学助教授，文学部（哲学科芸術学専攻課程）  
（その間 1990年10月～1991年8月 ハンブルク大学で研究）  
1993年10月～ 神戸大学大学院文化学（博士課程）兼任  
1996年4月 東京大学大学院人文社会系研究科（美学芸術学専門課程）助教授  
2007年4月 東京大学大学院人文科学研究科（美学芸術学専門課程）教授  
（その間 2008年10月～2009年9月 ドイツ連邦政府の招聘によりドイツにて研究）

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

美学・芸術学の基本概念の研究、「感性の学」としての美学の歴史的再構成、18世紀から19世紀にかけてのドイツ語圏を中心とする美学理論の研究、20世紀前半におけるドイツと日本の美学交渉史の研究、および間文化的視点からの美学理論の構築

### b 研究課題

第一に、2001年に公刊した『芸術の逆説——近代美学の成立』以来の研究の一環として、美学・芸術学の基本概念の研究に従事している。その一端は2009年に公刊した『西洋美学史』（東京大学出版会）において示した。この書物は、学説史研究の持ちうる現代的な意味を問う試みでもあり、この研究をその後も継続して行っている。

第二に、「感性の学」としての美学を歴史的に再構成し、現代の美学を刷新する作業に携わっている。これは数年後に『西洋美学史』第二巻として結実するはずのものである。この2年間はとりわけカントとヘルダーに即してこの主題を検討した。

第一、第二の研究課題とも関連するが、第三に、近代美学を基礎づけた書物と一般に見なされているカント『判断力批判』への新たな接近の試みに基づく美学の教科書の公刊に向けて、準備を進めた。これは2、3年以内に完成させたいと考えている。

第四に、昨今の「間文化性」への関心の増大に応じつつ、19世紀末から20世紀前半における日本の西洋美学の受容を「間文化性」の問題として扱う可能性を探る作業を継続している。

### c 概要と自己評価

上記四つの課題に関して、この2年間はとりわけ第三の課題に多くの時間を割いた。本来ならばこの作業により集中すべきとも思ったが、国内外からいくつかの共同研究の誘いを引き受けたため、第三の課題に関しては前半部をどうにか完成させるにとどまった。だが、共同研究の誘いは研究上の視野を広げる意味もあるため、今後も可能な限り引き受けたいと考えている。

### d 主要業績

#### (1) 論文

Tanehisa Otabe, 「The "Aesthetic Life": a Leitmotif in Modern Japanese Aesthetics」、『Contemporary Aesthetics』、Special V、2018

Tanehisa Otabe, 「Die "Einbildungskraft" und der "innere Sinn". Kants Kritik der Urteilskraft aus der Sicht der Aisthetik」、『Aesthetics』、2018.3

小田部胤久、「近代日本における「古典」概念の成立」、『美学芸術学研究』、36、171-90頁、2018.3

- Tanehisa Otabe, 「Three Aspects of Being Aesthetic in Kant's CPJ: Becoming Aesthetically Conscious, Aesthetic Magnitude, and Aesthetic Ideas」、『JTLA』、42/43、61-67 頁、2018.3
- Tanehisa Otabe, 「Alexander Baumgarten, "Psychologia empirica" (§§ 504-623) aus der "Metaphysica", mit kritischem Apparat」、『JTLA』、42/43、69-94 頁、2018.3
- Tanehisa Otabe, 「An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization」、『Culture and Dialogue』、6、35-50 頁、2018.8
- 小田部胤久、「「生の技術」の行使される場としての「美的生」について——シラーの「美的教育」論への新たな接近——」、『美学芸術学研究』、37、123-138 頁、2019.3
- Tanehisa Otabe, 「The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics」、『JTLA』、44、2019.3
- 小田部胤久、「シェリング『芸術の哲学』における「範例性」と「独創性」——その歴史的文脈の体系的再構成の試み」、『シェリング年報』、27、60-70 頁、2019.7
- Tanehisa Otabe, 「“The Unconsciousness”: Editor's Introduciton」、『Journal of Aesthetics and Phenomenology』、Special Issue、2019.11

## (2) 学会発表

- 国際、Tanehisa Otabe, 「"The I Think" and "the I Feel" in Kant's critique of the Power of Judgment」、Workshop: Feelings and Emotion in Philosophy、ユトレヒト大学、2018.3.17
- 国際、Tanehisa Otabe, 「Zur Genese einer am westlichen Klassik-Ideal orientierten Kunstgeschichtsschreibung in Japan」、Konzepte des Klassischen in Ostasiatischen Kulturen、ワイマール古典財団、2018.3.23
- 国内、小田部胤久、「近代日本における「古典」概念の成立——1880年から1920年まで——」、日本ヘルダー協会春期研究発表会、2018.5.12
- 国際、Tanehisa Otabe, 「"Minute Perceptions": Aesthetics in the Century of Empirical Psychology」、Neuronale Geisteswissenschaften und empirische Ästhetik、2019.5.18
- 国際、Tanehisa Otabe, 「Das „Exemplarische“ und die „Originalität“ in der frühromantischen Ästhetik」、Wie theoriefähig ist die Frühromantik heute? Internationale germanistische Tagung、2019.6.28
- 国際、Tanehisa Otabe, 「(Practical) Disinterestedness and (Aesthetic) Involvement: Kant's Aesthetic Theory Revisited」、International Congress of Aesthetics、Belgrade、2019.7.24
- 国際、Tanehisa Otabe, 「Kunst und Leben in Schillers ästhetischer Theorie」、Das Unendliche endlich dargestellt. Schellings Philosophie der Kunst im Kontext der Ästhetik und Kunst um 1800、2019.10.9
- 国際、Tanehisa Otabe, 「Zur Historiographie der ostasiatischen Kunstgeschichte unter den globalen Bedingungen」、Reflexion on Culture and Art in the Age of Globalization、釜山 東亜大学、2019.11.28

## (3) マスコミ

- 「人形を通して視線が重なる」、『みんなとブーク』、2018.4.15

## 3. 主な社会活動

### (1) 学会

- 国内、日本シェリング協会、会長、2018.4~2020.3
- 国内、日本18世紀学会、代表幹事、2018.4~2019.7
- 国際、Culture and Dialogue、編集委員、2018.4~2020.3
- 国際、国際美学連盟、副事務局長、2018.4~2019.7
- 国際、国際シェリング協会、委員、2018.4~2020.3
- 国際、美学芸術学研究(韓国)、編集委員、2018.4~2020.3

### (2) 学外組織 委員・役員

- 日本学会会議連携会員・哲学委員会幹事、2018.4~2020.3
- NPO アートセラピー研究所DAM 役員、2018.4~2019.3